

「芸術 x 力」 ポストン美術館展

東京都美術館（東京・上野公園） 2022.07.23～10.02

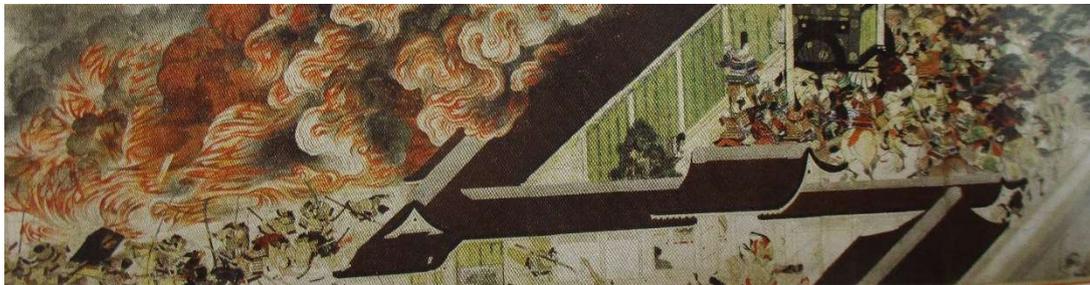


「ポストン美術館」は1870年に地元有志によって設立され、米国独立100周年の1876年に開館した由緒ある美術館で、本展では収集品の中から「およそ60点」が展示されている。美術館の大きな特徴は、民営で運営されてきたことであり、世界屈指の幅の広さと質の高いコレクションを誇り、収蔵品は「50万点」を数え、エジプト美術やフランス印象派絵画などが特に充実しているが、仏画、絵巻物、浮世絵、刀剣など日本の優品を多数所蔵して日本との関係が深いことでも知られている。

《平治物語絵巻：三条殿夜討の巻3》部分 上図

上皇を車に乗せて内裏へ向かう襲撃者の一行を描いた作品で、馬に乗った身分の高い武士は作り絵の手法で丁寧に描かれている。この絵巻には、描き直しや付け加えの痕が見られることから、第一次企画として初発的に描かれたものであると推測がされている。

《吉備大臣入唐絵巻》と《平治物語絵巻・三条殿夜討巻》 紙本着色



本絵巻は、遣唐使として唐に渡った「吉備真備」という実在の人物をもとに、唐の宮廷での伝説を描く説話物語であり、鎌倉時代13世紀後半の作品と揃って出展され国宝級とされ注目されているダイナミックな火炎描写である。



アンソニー・ヴァン・ダイク 《チャールズ一世の娘、王女マリー》1637年

画伯は、バロック期の画家で、ハプスブルグ家の宮廷画家となり、貴族と宮廷人を対象とした優美な肖像画を作成した。本作品は、6歳のメアリー王女を子供のような服ではなく、宮廷の舞台上で自分の役割を果たすための相応しい服装を見繕い、優美で滑らかな作風で描いた作品で、婚姻に際し王女の花婿に贈られた肖像画である。